

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201593		
法人名	社会福祉法人 豊心会		
事業所名	和幸苑グループホームあゆみ		
所在地	大分県別府市亀川東町20番16号		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は3食手作りしています。ご本人の体調に合わせての変更や、季節の食事もできる限り取り入れています。自治会との合同行事は、コロナ禍のため実施されていませんが、防災などは協力体制を作り自助共助で、できることを一緒に行っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所での暮らしが長い利用者の声掛けが、帰宅願望の強い新入居者の見守りや、穏やかな事業所での暮らしに繋がっている。
- ・地域役員との馴染みの関係が出来ており、災害時の協力体制や自治会の避難用具を法人内に常置するなど、地域との自助共助の体制作りが進められている。
- ・協力医との協働関係が築けており、日常の健康管理や重度化対応など、職員の医療支援の負担軽減に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと地域の方々と関係性を大切にしている。地域の防災士として、防災訓練に参加をしたり、または自治会の一員としての活動も参加している	地域密着型事業所としての役割を示した理念が作成されている。コロナ禍により、様々な困難な状況が続いているが、施設長を中心とした、地域の一員としての事業所運営に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自宅にいるときからの、美容室にカットに行くなど利用者が住んでいた地域とのつながりが途切れないようにしている。自治会も災害時の避難の声掛け等一緒にできる関係づくりを行っている	地域の役員や近隣住民との馴染みの関係が出来ている。認知症や介護の専門事業所として、見守り支援が必要な住民や初期認知症、介護保険制度の相談を受け、専門機関に繋げるなどの取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は推進会議等を通じてだったが、現在は自治会や近所の方から直接相談を受けることがある。状況によって、包括支援センターや居宅介護事業者、特養につなげるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの関係で、会議は開催せず文書でのやり取りになっているが、折を見て自治会などに一緒にできることや、連絡事項なども含めて話をしている	運営推進会議は、同一法人のグループホームと合同で書面開催で開かれている。会議資料を委員に持参し、内容を説明、意見や提案の聞き取りを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	別府市高齢者福祉課の担当職員とも、事業所の実情などをきいて、後見制度の導入なども含めて協力関係を築けるように取り組んでいる	コロナ禍での運営推進会議の開催について相談したり、利用者家族の相談を別府市の担当者に繋げている。包括支援センターに地域の介護相談者を紹介している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束を行わないように取り組んでいる。日中車いすで長時間過ごす方は、昼食後ベットやソファで横になれるようにしている	音がしたら直ぐに駆けつけたり、職員同士で見守り中心の対応を行っている。居室で点滴処置を受ける利用者の手を取って、穏やかに治療を受ける支援も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部の研修を行い、何が虐待にあたるのかなど見逃されないように勉強している		

事業者名:和幸苑グループホームあゆみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見制度を活用している利用者様はいないが、ご家族の問い合わせに関してこたえられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し同意をえられるようにしている。面会時も疑問や不安があればこたえられるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から意見などが出れば、推進会議などでも伝えられるようにしている	毎月の請求書に、利用者の近況を知らせる手紙を付けて送付している。利用者の水分不足改善では、家族に好みの飲み物を聞き、支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム内で会議を開き、職員の意見を聴ける機会を設けている。また、月2回の管理者会議や法人の在宅委員会に参加することでグループホームの報告と状況、職員の意見が言える場ができています	職員会議や勤務中の会話の中で、意見や提案を聞く機会がもたれている。今年度、入浴時間帯の変更提案があり、実践・検証し、現状の入浴支援継続の確認が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況や、勤務状況なども把握し勤務の調整及び、資格取得の推進を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合わせて指導ができるよう勤務の調整を行ったり、研修が受けれるように協力を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで連絡協議会を作り定期的に研修を通じて他の事業所や多職種との交流が図れるようになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に自宅や病院などに会いに行けるときは面会を行い、本人や家族の話が聞けるように努めている。その際、本人の生活の流れややりたいこと、やっていることなども聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時にも今困っていることや気になっていることを聴いたり、本人の家庭での役割など聞き取れる範囲で聞くことにより、スムーズにグループホームになじめるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や、家族の状況も考慮し自宅での生活が可能な方は、そのまま包括支援センターや居宅介護事業所に繋ぐこともある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室とフロアを行き来する利用者様を、他の利用者様がソファに呼び止め一緒にゲームを楽しんだり、職員に野菜の名前を教えてくださいする利用者様もいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態を毎月手紙で伝えている。コロナでの面会の制限があり、ゆっくり居室で話したり家族と外出ができなくなっているが、ラインなどモバイルを使用し、日常を時々写真や映像で送ったり、ご家族の写真も本人が見れたりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外でもなじみの方と関われるように、行きつけの美容室がある方はカットに行ったりしている	家族からの荷物到着の電話連絡や、利用者や家族との携帯電話のやり取りの仲介・取扱支援が行われている。事業所内の公衆電話を利用して家族と話をする利用者もいる。感染対策を講じての玄関での面会も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握しながら、食事の席を変えたり、ソファで誘導したりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は、入院や特養入所時など面会に行っていたが、コロナの関係で会いに行くことができなくなったため、家族に手紙やメールで聞くこともある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	積極的にコミュニケーションをとりながら、ご本人の思いなどを、会話の中で聞き取れるように努めている	利用者のアセスメントは管理者が取り、日々の支援の中で思いを聞き、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、自宅で生活している方は訪問したりして把握に努めている。病院に入院されていたりする方は、会えるときは訪問したり、家族やケアマネなどと情報共有しながら生活の状況などを聞き取りしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	積極的にコミュニケーションをとりながら、ご本人の生活の把握に努めている。その中で洗濯物たたみや新聞たたみ、テーブル拭き等できそうなことをお願いし、役割を持ってもらうこともある		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや、アセスメントを行い本人と家族の意向と状況に合わせた介護計画になるように努めている	介護計画作成担当者が主体となり、利用者の状況に合わせた介護計画作成に努めている。計画に沿った記録、毎月のモニタリング、6か月の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分摂取量や排泄・服薬などと身体状況をありのままに記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や・看取りなどその時に応じた必要な支援を柔軟に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の状況やアセスメントを行いながら継続した生活が送れるように努めている。自宅にいるときから携帯電話を持っている利用者様には、状況を見てそのまま持っていてもらったり、必要時に渡すようにし、家族の関係を切らないようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診をしている。家族の状況に合わせて受診なども一緒に行っている	ほとんどの利用者が協力医を掛かりつけ医としており、月2回の訪問診療を受けている。協力医との関係も築けており、日常的な健康管理や利用者の病状変化のアドバイスや対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定を毎日行い、往診に来てくれるかかりつけのDrに報告し連携を図っている。いつもと違うことに気が付けば、かかりつけの病院に連絡し、指示をもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった時は、病院や家族などと相談し早期退院できるように情報提供と連絡を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の説明とともに、状況に合わせての対応をかかりつけ医と家族との話し合いを持ちながら、終末期に対応している。年齢も上がり、看取りなどに移行すつ時もDrも交えホームのできることを話あっている	利用者や家族の希望に沿った重度化・終末期支援が行われている。重度化による医療支援に備え、訪問看護の導入が検討されている。また、風呂好きな利用者が最後まで湯船に浸かって入浴ができるよう、機械浴での入浴ができる特養への住み替え支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時は、マニュアルに沿って対応するよう努めている。また、かかりつけ医に相談できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風等災害時、法人内での避難ができるようにしている。また、地域との連携を密にすることで、災害時も自治会からの声掛けもしてくれる	母体法人の特別養護老人ホームが避難場所となっている。自治会長などの協力支援体制も取られており、昨年の台風時には全利用者で避難し、避難先の職員の協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを考え、自己決定しやすい声掛けや対応に努めている。レクレーションなども参加は強制せず個別に対応することも多い	利用者の個性や行動に対し、穏やかに過ごせるような声掛けに努めている。台風時の母体法人への避難の際、移動を渋る利用者に職員が個別で寄り添い、納得しての避難が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	じぶんの意思がうまく伝えられない利用者様は、職員が日々のかかわりの中で本人の意向に沿えるよう努めている。食事やトイレなど生活に係ることは特に注意している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人差があるため、本人のペースで過ごせるように食事の時間の変更や、入浴の順番など利用者様に合わせながら対応に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪染めや、簡単なカットなどは家族の希望でホームで行うこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきだけでなく、季節によってフキや栗など下処理を職員と話しながら一緒にする利用者様もいる	毎食、事業所厨房で手作りの食事が作られている。事業所の畑で収穫された野菜を献立に取り入れたり、季節や行事に合わせたメニューが提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけ、利用者様個々の状態に合わせた食事になるように努めている。お茶などを嫌がる利用者様は本人の好む水やジュースに変えたり、食事量が少ない利用者様はたんぱく質が取れるよう黄な粉や、ゼリー等歩かせて補食できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けを行い、上手にできない方は介助も行っている。舌ブラシも使用してもらい、口腔内の清潔保持に努めている。また、昼食前は口腔体操も積極的に行っている		

事業者名:和幸苑グループホームあゆみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の生活リズムや排泄パターンなども排泄チェック表で確認しながら、把握に努めている。	排泄パターンや、立位が出来るか、座位が保てるかという身体状況を確認しながら、トイレでの排泄支援に努めている。各居室にトイレが設置されているので、自分で行く利用者にも、さり気ない排泄の確認が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行できる方は、毎日ゆっくり室内での歩行を促したり、車いすの方は座ったままできる体操を一緒に行っている。食事も、積極的に食物繊維などが多い食事になるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状況によって、湯加減等を調整している。外気温などに合わせて、午前中にしたり、午後から入浴を行うこともある	週2～3回の入浴支援が行われている。重度化によりシャワー浴を行うときも、タライに湯を張って足浴の対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動時間はできるだけ増やすようにしているが、ご本人の体調などに合わせて起床時間をずらしたり、居室ベッドで休める時間を増やす等ゆっくりして生活をおくれるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はどの職員も確認できるようにしている。服薬は、個別に合わせて手渡しする方や、介助する方。錠剤がのみこみづらい方は、都度つぶしたり、シロップに混ぜるなどして服用しやすいようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を一緒にたたんでもらったり、テーブルを拭くなど役割を持ってもらっている利用者様もいる。また、話が好きな利用者様は、動きがある利用様をそばに呼んでゆっくり座って過ごせるようにしてあげることもある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの関係で、外食やお店での買い物などはいけませんが、散歩や日光浴、体調に合わせてドライブなども行い気分転換を図っている	テラスのベンチで日光浴をしたり、日常的に外気を楽しむ支援が行われている。天候の良い日には、車いすの利用者も散歩に出掛け、海に近い事業所周辺の景色を楽しむ支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所でお金の管理は行っているが、電話をかけることができる利用様は小銭程度は自己管理し家族に公衆電話で電話が好きな時にできるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたら、家族に送れるよう支援している利用様もいる。また、ラインでのやり取りを一緒にすることで映像を送ったり、家族からの映像を見れるようにしている利用者様もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、フロアで過ごす方が多い。テレビ前のソファに寝そべてテレビを見られる方もいる。食事の作る匂いはわかりやすく、料理の音や匂いが感じられやすい	共有空間全体が広い造りになっており、共有スペースの食卓から居室への移動が歩行の生活リハビリに繋がっている。中央部に設置された和室は、栗の皮むきや新聞たたみ作業に利用したり、看取りを迎える利用者が穏やかに終末期を過ごす場にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルでゆっくり過ごせるようにしている。フロアからあまり見えない位置に椅子を置いているが、フロアで一緒に過ごすことが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみのものを持ってきていただいている利用者様もいる。ご本人のタンスや仏壇を持ってきている方もいる	ゆっくり朝寝を楽しんだり、使い慣れた化粧水や乳液を常備したりと、プライバシーに配慮された、落ち着いて過ごせる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レクリエーションの道具を、フロアの見えるところに置いていたり、滑車運動も職員が見える位置でできるようにし、できる限り安全が保てるように努めている		